

ピア・グループ・スーパービジョン について

IAP横浜相談室 伊藤享司

事例検討とスーパービジョン

- 事例検討...対象事例の支援方法を検討することに重点が置かれる。より良い支援方法を話し合い、支援者の実践知を養う。
- スーパービジョン...スーパーバイザー（事例提出者）が何を考え、何を感じ、何を学ぼうとしているのかをスーパーバイザーが汲み取り、スーパーバイザーの学びを深めていく。事例はそのための素材として活用され、支援者の成長に重点が置かれる。

グループスーパービジョン

- 1人のスーパーバイザーが複数のスーパーバイザーに対して、スーパービジョンを実施する。
- 1人のスーパーバイザーが事例を提出するが、その事例を通して、スーパーバイザー全員の成長につながる。

ピア・グループスーパービジョン（以下PGSV）

- 進め方はグループスーパービジョンとそれほど変わらない
- スーパーバイザーが不在のなかで、提出されたケースを活用する。
- スーパーバイザー同士が仲間（ピア）として、お互いの課題を一緒に振り返り、メンバー全員が成長できる場を作っていく。

PGSVの意義

- 「仲間」で行うスーパービジョン。他メンバーが自分と似たような問題を抱えていることを理解し合うことができ、**サポーターティブな関係**を築ける。
- 他メンバーを通して、**自分の実践に対する気づき**になる。他者がケースと向き合っている姿に、自分の課題が投影されている。
- 個人として限界を生じてもグループであれば**限界を超えられる**。
- 一緒に考えてくれるメンバーに支えられて自分の**実践を振り返る**ことが出来る。

(ここでの) ピア・グループスーパービジョンの目的

- 自己覚知...自分を客観的に理解し、専門職としての態度を養い、クライアントの利益へ貢献できるようになること。
- 自分を完璧に客観視することには**限界と無理**がある。
⇒ 偏見や先入観といった**主観を完全に排除**することは出来ない。
- 主観であっても**様々な視点**から自分を理解すれば、**偏ることを防ぐ**ことが出来る。
- 参加メンバーの成長が、クライアントの利益につながり、**社会全体がよりよくなる**ための実践の一つになる。

PGSVのすすめ方①

- ここでは、ソーシャルワーカーの**SV**（相談支援専門員現任研修）と心理カウンセラーの**SV**（インサイトカウンセリング株式会社の**SV**）をミックスした形ですすめる。

PGSVのすすめ方②

- ①**報告**...事例提出者から事例を報告
- ②**質問**...一問一答になるように質問する。
- ③**所感と見立ての伝達**...事例提出者の報告と、質問で明らかになったことを踏まえ、事例に対しての所感や見立てなどを伝える。
- ④**各メンバーのニーズ（課題）を開示**...事例提出者はその事例に向き合う中での自分のニーズを、他メンバーは事例提出者に投影した自分のニーズを開示する。
- ⑤**検討**...事例提出者のニーズを達成できるように皆で考え、実行できるプランを選択する。
- ⑥**振り返**...それぞれの気づきの開示。

参考文献

- 令和4年度 神奈川県障害者相談支援従事者現任研修（横浜市）1日目 講義資料
- 大津雅之（2022）「自己覚知」から考えるピア・グループ・スーパービジョンの有用性 山梨県立大学 人間福祉学部 紀要 Vol.17
- 塩田祥子 植田寿之（2010.3）ピア・グループ・スーパービジョンの意義と課題に関する考察 花園大学社会福祉学部研究紀要 第18号 2010年3月